

令和 5 年 10 月 24 日

部 局 長 各 位

総 合 政 策 部 長

## 令和 6 年度予算編成方針について

標記について、小松市財務規則第 4 条の規定により、下記のとおり通知します。

### 記

#### 1 国の動向

国の令和 6 年度予算編成に向けての方針は、「令和 6 年度予算の概算要求に当たっての基本的な方針について」及び「経済財政運営と改革の基本方針 2023」（以下、「骨太方針 2023」という。）などに基づき、経済・財政一体改革を着実に推進することとしている。

重要政策推進枠としては、骨太方針 2023 のテーマである「加速する新しい資本主義」の趣旨を踏まえ、「少子化対策・こども政策の抜本強化」、「構造的賃上げの実現」、「官民連携による投資の拡大」などを掲げており、特に 6 月に閣議決定された「こども未来戦略方針」の内容の具体化や、物価高騰対策等を含めた重要政策については、予算編成過程において検討することとしている。

このような国の動向等を注視しながら、本市の令和 6 年度当初予算編成に当たっては、今年度策定の「2040 年ビジョン」や本市を取り巻く社会情勢・市民ニーズを的確に捉え、予算への反映に努めることとする。

## 2 令和 6 年度の財政見通しと課題

本市の令和 6 年度の財政見通しについて、歳入では、市税においてコロナ禍前の水準に戻った令和 4 年度決算及び令和 5 年度当初予算と同程度を見込んでおり、歳出では、産業創生など本市の成長に向けた投資の加速や、先行きが不透明なエネルギー・物価高騰の影響などに相応の経費が必要となってくる。また、中期的な見通しとしては、コロナ禍からの社会経済活動の回復や、新幹線開業・区画整理事業などがもたらす歳入面での好影響が見込まれる一方で、未来型図書館の建設や小中学校の施設整備及び企業立地対策などの大型投資の本格化、団塊世代の全てが 75 歳を迎える 2025 年問題による社会保障費の増なども控えており、これらを見据えた上で収支均衡のとれた予算編成が課題である。

このような財政見通しを踏まえ、これまでに全ての事業で着手済みとなった「新しい小松をつくる 55 の具体策」に引き続き、新たな「2040 年ビジョン」の実現に向けた施策を展開するとともに、令和 4 年 8 月の大雨災害を機に発足した「梯川水系緊急治水対策プロジェクト」の着実な実行による安全・安心な暮らしの実現などに取り組む必要がある。北陸新幹線小松駅開業はゴールではなく、まちの発展に向けた新たなスタートであるという認識を持ち、中長期展望を描きながらまちづくりを加速するとともに、まちづくりの持続性を高める行財政運営にも挑戦し続けることが重要である。

## 3 予算編成の基本的な考え方

### (1) 2040 年ビジョン（6 つの都市目標）の実現に向けた施策の展開

#### ①世界に時めく日本海側の拠点都市こまつ

○小松空港・小松駅の 2 大都市機能を有するという魅力を最大限に活かして、来春の新幹線開業後はビジネスや観光などの交流都市として本市がさらに発展するという展望のもと施策を立案すること。

## ②子どもたちの輝く未来創造都市こまつ

- 子育て・教育の充実が住みよいまちへの第一歩であり、本市は国の異次元の少子化対策に先駆けて少子化対策や教育環境の充実に取り組んでいるところである。今後日本全体で少子高齢化が進展することを先読みし、国の「こども未来戦略方針」の具体化はもとより、全部局において「子育てするなら小松」の方針を念頭に置いた施策の推進に努めること。
- 教育は社会の持続・発展の根幹であり、未来を担う子どもたちへの教育の質の向上と環境整備に努めること。

## ③誰もが暮らし続けられる生涯安心のこまつ

- 子育て世帯のみならず、あらゆる世代や人々に本市が選ばれ、全ての市民が安心して暮らしを続けられるよう、医療・福祉・健康分野など生活環境の充実を図ること。
- 近年の異常気象は、想定する防災対策を上回る規模で全国的に発生していることを踏まえ、公共投資のみならず、市民の防災意識の醸成など、ハード・ソフト両面から安全・安心な暮らしの実現を目指すこと。

## ④ものづくりが誇りの産業創生都市こまつ

- 人口や税収の増加など、好循環につながる企業誘致を促進するとともに、地域経済活性化の担い手である地元企業の育成・発展に向けた支援や、伝統産業の継承などに効果的な施策を講じること。

## ⑤自然が映え文化が息づくふるさとこまつ

- 農山村をはじめとした自然や、歴史・文化といった魅力ある地域資源を活かし、観光や学びなど様々な分野での事業展開を念頭に施策を立案すること。
- 近年の気候変動が地球環境等に及ぼす影響を鑑み、ゼロカーボンシティの実現を目指すという方針のもと、各分野において脱炭素の取り組みを推進すること。

## ⑥ワンランク上の生活空間あふれるこまつ

- 芦城公園エリアを中心とした未来型図書館の総合プロジェクト，スポーツ・文化の活動環境整備など，市民の余暇の充実やクオリティ・オブ・ライフの向上につながるよう工夫を凝らすこと。
- ドローンやA Iなどの最新技術を導入した効果的な事業展開に努めること。

## (2) まちづくりの持続性を高める行財政運営

- 2040年ビジョンの実現に向けた施策は，健全な財政運営のもとに展開しうるものであり，目的と成果目標を明確にした上で計画的に実施するものである。また，その施策が及ぼす将来影響も十分に考慮する必要がある。
- 時代の流れにより変化する社会・経済情勢や多様化する市民ニーズを的確に捉え，既存事業や業務の必要性を再確認し，不要な事業や仕事はスクラップするなどの不断の改革と創意工夫を凝らしながら，全部局一丸となって持続可能な行財政運営に努める必要がある。
- 貴重な税収入を市民生活及び本市の発展のために予算配分することを念頭に置くとともに，コンプライアンスに基づく適正な予算執行を見据え，各事業における費用負担の適正等についても，予算編成段階から精査することとする。

各部局においては，この予算編成方針に沿って予算要求を行い，「小松を明るく，にぎやかに！」を目指して予算編成に取り組むこととする。